

告 辞

学長 上野 正雄

明治大学で学び、今日、卒業の日を迎えた皆さん、卒業、修了、誠におめでとうございます。皆さんが今、ここに立つことができるのは、学業に真摯に向き合い、仲間と励まし合い、幾多の課題を乗り越えてきた皆さんそれぞれの努力の賜物にほかなりません。私は心からその努力を称えたいと思います。

その中でも、今日、私がまずお伝えしたいのは、ウクライナ出身の 5 名の卒業生の皆さんのことです。皆さんの母国は今なお大変厳しい状況にあります。家族や友人の安否を案じながら、日本という異国の地で生活を整え、言葉や文化の壁を乗り越え、勉学に打ち込み、そして本日この晴れの舞台に立たれている。その道程は、想像を超える困難を伴ったはずです。私は、その努力と精神力に対して、心の底から快哉を叫びたいと思います。併せて、皆さんを支えた仲間や教職員、日本社会の中で出会った多くの人々の存在にも、改めて感謝の意を表します。

また、これまで、卒業生の勉学を物心両面において温かく支えてこられたご家族ならびにご関係の皆様、学業の大きな区切りを迎え、お慶びもさぞかしのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

さて、これから皆さんが進む社会は、かつてないほど、膨大な情報と多様な価値観が複雑に交錯している社会です。同じ出来事であっても、人や集団、国家によって見え方が異なり、何が事実で何が虚構なのかを見極めることが一層難しくなっています。便利さと速さをもたらした情報技術は、同時に、誤情報や偏った意見が瞬く間に広がる土壌もつくりました。私たちは、その中で、立ち止まるべきときにきちんと立ち止まれるよう、自らの判断力を磨き続けなければなりません。

そのために不可欠なものは、批判的思考と多面的思考です。

批判的思考とは、与えられた情報や主張をそのまま受け入れるのではなく、根拠を探り、自分の頭で問い直し、判断することです。それは相手を否定することではなく、自分自身を含めたあらゆる前提を検証し、より確かな理解に近づくための営みです。

多面的思考とは、自分とは異なる立場や背景を持つ人々の視点を、想像し、理解しようとする姿勢です。それは、意見が異なるからこそ対話を重ね、新たな理解や価値、解決策を生み出すための力になるのです。

そして、この二つは、互いを補い合うものです。批判的思考がなければ、誤った情報や偏った見方に流されます。多面的思考がなければ、自分の意見が絶対だと信じ込み、独善に陥ります。歴

史を振り返れば、そして、今の社会を見れば、この独善こそが、社会の分断や対立を深めてきたことは明らかです。だからこそ、両方を併せ持つことが大切なのです。

明治大学は、創立以来「権利自由、独立自治」を掲げ、自ら考え、自ら判断し、行動する人材を育ててきました。この精神は、単に個人の自由を謳うだけではなく、その自由を社会の中で生かし、他者と共により良い未来を築くための責任を伴うものです。批判的思考と多面的思考は、その責任を果たすための不可欠な道具でもあります。

今日の卒業は、皆さんにとってゴールではなく、新しい出発点です。これからの人生では、大学の講義のように答えや方向性が用意された問いばかりが待っているわけではありません。むしろ、答えが一つに定まらない問いや、解くのに長い時間を要する問いに向き合うことのほうが多いでしょう。そんな時こそ、明治大学での授業の中で、一人ひとりの先生が示してくれた批判的思考と多面的思考が、皆さんを支えてくれます。

どうか、安直な答えや考えに飛びつかず、他者の声に耳を傾け、異なる背景を持つ人々との対話を恐れないでください。その積み重ねが、皆さんの「個」をより強く大きく成長させると同時に、社会への貢献そのものとなるはずです。

皆さんは、今日、明治大学を卒業します。これは過去の努力の証であると同時に、未来への大きな約束でもあります。困難に直面したとき、どうか今日の喜びを思い出してください。迷いそうになったとき、ここで出会った仲間や学びの時間を思い出してください。そして、自らの信じる道を勇気をもって歩んでください。

皆さんには、どこへ行っても、何をしても、「権利自由、独立自治」を建学の精神とする明治大学で学んだものとしての誇りがあります。その誇りは、皆さんを支え、励まし、背中を押し続けます。世界のどこにあっても、皆さんは明治大学の仲間であり、共に歩む存在です。

胸を張って、未来へ羽ばたいてください。大きな夢を描き、それを実現するために挑戦し続けてください。皆さんの行く先が、希望に満ちあふれることを、私は信じています。

卒業、修了、誠におめでとうございます。